

No.9
2012.3

科学するよろこびとたのしさを 金沢子ども科学財団だより



科学するよろこびと楽しさを

金沢子ども科学財団には、平成14年に公募で決定されたロゴマークがあります。不思議の謎が解けてびっくり感動したのでしょうか。『∞』（無限大）をモチーフにした子どもが、緑の『?』（クエスチョンマーク）と黄色の『!』（びっくりマーク）の間で、とてもにこやかな顔をしています。子どもたちの無限の可能性をイメージしたものと聞いております。

金沢は、アドレナリンを発見した高峰譲吉博士や天文学者の木村栄博士など、偉大な科学者を多数生みだしたまちです。その金沢の子どもたちに、「科学するよろこびと楽しさを」と設立された金沢子ども科学財団は、設立から早12年目を迎え、昨年公益財団法人として認定され、さらなる第一歩を踏み出しました。多くの小中学校、高校から大学にいたる先生方をはじめ大学生、大学院生の皆様の熱心なご指導、ご協力を得て、これまで以上の多彩な事業に幼児、小中学生が

公益財団法人 金沢子ども科学財団 副理事長 浅香 久美子

目を輝かせています。

参加した子どもたちの感想には、「びっくりした、すごい」「難しかったけど、うまくいってうれしい」さらに「またやりたい、また参加したい」「家で妹にもみせてやりたい」などうれしい言葉がつつられています。自然の中に、また身近なすぐそこに不思議があります。一つの不思議との出会いから謎が解けると、さらに次の不思議に出会います。そのたびに子どもたちは大きく成長していきます。

科学技術の進歩は人類に大きな幸せをもたらしてくれましたが、今回の大震災は持続可能な社会にむけて警鐘ともなりました。無限の可能性を持った子どもたちです。自然や様々な教室での先生方や友達、保護者の方々とのかわわりを通して、科学を楽しみ科学する心を育むとともに、思いやりと広い視野を持った人に育ってほしいと願っております。

平成23年度 実施事業の報告

おもしろ実験・観察教室

財団にある実験室や野外活動をおとして、物理・化学・生物・地学の各分野の教室を実施しています。小学3・4年生は毎月1回、小学5年生から中学生は、年10回の教室を毎回募集して実施をしています。

今年度はこれまでの方式を変更し、ほぼ毎月教室を実施してきました。広坂子ども科学スタジオを卒業した新たな科学者のたまごの皆さんにたくさん参加いただきました。これからも科学好きな子どもたちにたくさん参加いただければと思います。

3・4年生

金属イオン
って?



最初はむずかしそうだったが、色々な色になっていくのが知れて、実験していくうちに分かってきて、楽しかった。(小3)

5年~中学生

どうして
発電する?



電気の作り方がわかり、電気を作るのがとても大変なので、大切にしたいと思った。(小5)

特別講座

角間の里山?
自然学校
秋の里山探検



見たことのない植物や、コウモリのねむっている姿が見られ、食べられる植物をしらべられてうれしかった。(小6)

化石を探ろう

手取層



恐竜の歯には大きいものから小さいものまでいろいろあり、びっくりした。石の出来方も種類があっっておもしろかった。(小6)

年間講座

児童科学教室

2年間の受講生を募集して行う科学教室です。

小学5・6年生を対象としています。

今年度は241名の児童が所属し、野町・中央・明成の3教室でそれぞれ年間18回開催されました。

5年生は研究の基礎を中心に勉強し、6年生はグループに分かれて自由研究に取り組み、発表も行いました。教室代表グループの発表会を終えた科学者のたまごたちは、ひとまわり大きくなって見えました。



サイエンスクラブ

1年間の受講生を募集して行う科学教室です。

中学生を対象としています。

今年度は38名の生徒が所属し、年間10回開催されました。指導員の先生方による実験や夏季合宿の他、自由研究に取り組んだり、大学で先進的な研究を学んだりしたクラブ員は、ひとまわりたくましくなって巣立っていきました。



算数・数学チャレンジクラブ

1年間の受講生を募集して行う算数・数学の教室です。

小学5・6年生と中学生を対象としています。

今年度は、177名の小学生と50名の中学生が受講していました。

学校の算数・数学とはひとあじ異なり、「グラフのように歩いてみよう」「パズルを作ろう」「数当てゲーム」のように、作業や制作、ゲームなどを通して難しくても楽しく学べていました。

【利用者の感想から】

ピースを組み合わせ正多面体を作り、その特徴に気づいた。正多面体が5つしか存在しない理由が分かった。それは、どの面も360°を超えると、立体にならないからだ。この授業で、もっと図形・立体が好きになった。(小6)



多面体について

科学研究作品展

子どもたちが主に夏季休業期間中に行った研究作品を展示しました。市内小中学校から小学生828点、中学生197点の計1,025点の応募がありました。

期間中、2,040名の参観者で賑わいました。

場所

玉川こども図書館

期間

平成23年

11月5日(土)～13日(日)



【参観者の感想から】

子どもたちの科学離れが言われる中、とても素晴らしい作品が多く感じました。作品を見ることにより興味がわかきは自分もという気持ちになれるのでとてもよい作品展だと思います。

科学財団はこれからもがんばってほしいです。

私が小中学生の時にも科学財団があったらよかったなあと思いました。



科学研究口頭発表会

子どもたちが自分の研究について口頭発表する会で、子どもたちの発表能力を育成し、さらにその発表へのコメントを得ることで研究発展への応用力を育成していこうとするものです。

発表は21タイトル、22名の参加で行いました。

場所

玉川こども図書館

開催

平成23年

11月12日(土)



【参加者、参観者の感想から】

●よく考えてあり、よい研究ばかりでした。大変こちらも参考になりました。自分たちのやったこと、考えたことをきちんとまとめてあり感じました。(教師)

●大学の先生、院生の方に質問、アドバイスをいただくことは、子どもには緊張するようですが専門の先生の方のアドバイスは子どもの今後にとってもよいものであると思います。(保護者)

●時々詰まったけれどうまく発表できてよかった。順番を間違えたりしないで大きな声でできたのでよかった。機会があればどんどんチャレンジしたいと思う。(児童)

■ 広坂子ども科学スタジオ

未就学の年長児から小学1・2年生の児童を対象に、科学実験や自然観察を行い、今年度も多くの方々に参加いただきました。

活動は毎週異なる内容で午前と午後の2回開催しています。スタジオでは、身近にある物を利用してものづくりをしたり、それを使って科学遊びや科学的な内容についての実験を行ったりするほか、年6・7回程度野外での観察も行っています。

内容としては、音・光・熱・電気や、空気・水など身の回りの物質の性質、食品、動植物、土・化石・月・星などをテーマとしたいろいろな実験や観察を行っています。また、算数の講座も2回開催しました。これらを通じて、科学のおもしろさや不思議さを感じ、親しみを持って欲しいと願っています。



空気と遊ぶ

【利用者の感想から】

- 一番おもしろかったのは空気砲で、大きいのはカーテンがうごいたのがすごかったです。できないこともあったけど、できるようになりました。楽しかったので、もっと広坂子ども科学スタジオに来たいです。(小2)
- 今日は、コップに入れた水に紙でフタをして逆さにしても水がこぼれない実験をはじめ、熱湯で暖められた空気で風車が回る実験、ピンを置いた手前から息を吹きかけても奥に置いた紙を動かせる実験など、大人でも結果が予測できないワクワクするものが多く、楽しかったです。大きな空気砲からドーナツ形の大きな煙が出てきて、遠くのカーテンが揺れた時には、親子で声を上げてしまいました。(保護者)

■ 広坂子ども科学スタジオ・オープンスクール



スライムをつくってみよう

保育園・幼稚園年長児や小学1・2年生を対象とした校外活動の一環として、平日に広坂子ども科学スタジオで実験教室を行っています。今年度もたくさんの方々に足を運んでいただきました。



【利用者の感想から】

2種類のスライム作りをさせていただきました。まだ科学的なことにはわからない感じでしたが、実際に自分で作って、変化していく様子を見て喜んでいました。また、スライムで遊ぶこともとても喜び、園に持ち帰ってからも楽しんでいました。とても興味を持ち、触ったり形を作って楽しんでいました。楽しい経験をありがとうございました。

■ 交流事業

財団では科学やものづくりへの興味を持っていただけることを期待し、大学やその研究室、企業等の実施する社会貢献活動に協力・共同した科学教室や講演会等を開催しています。

今年度はテクノパーク科学教室などを開催し、多くの方に参加いただきました。



腎臓はどのようなはたらきをしているの？



光で通信してみよう！～光トランシーバーをつくろう～

■ 科学相談

科学研究をやってみたい、どのように研究を進めたらよいか分からない、という小学3年生から中学生を対象にしたアドバイス講座です。

今年は小学生3名、中学生2名の応募があり、そのうちの1点が金沢市優秀賞および石川県優秀賞を受賞しました。

【利用者の感想から】

相談をされていて地味な研究になりそうだなと思ったけれど、磁石でもおもしろい研究ができそう。例えば、針の真ん中に磁力の強い磁石をぶついたら両端の極はどうなるのか、がんばってみます。



■ 出前科学スクール

主に保育園・幼稚園や小学校保護者会などからの申込を受けて行う出前型の教室です。

今年も沢山の方にご利用いただきました。



顕微鏡で見よう

【利用者の感想から】

顕微鏡を上手に扱え、虫、羽や目などを観察し、驚いたり、喜んでいました。

特別事業

ジュニア科学者養成講座 長期

金沢子ども科学財団既存事業の児童科学教室、サイエンスクラブ、科学研究作品展、科学研究口頭発表会等に参加している子どもたちの中から、優れた科学研究をし、さらに深く研究したいという意欲を持つ子どもたちをバックアップする取り組みを実施しています。

期間は4月末から8月末まで、12単位・36時間を基本に10名が、金沢大学理工学域大学院生に指導をいただき、研究をしてきました。

今年度は、小学生9名、中学生1名の応募があり、4月末から研究を開始しました。金沢市作品展では全員が優秀賞、石川県作品展では特別賞2点、優秀賞3点、優良賞5点、また、全国展では3点が入賞しました。

ここ数年にわたって全国展に入賞する作品が多く見られるようになりました。財団の取り組みが効果を現し始めたものと評価しています。



算数・数学オリンピック支援講座

難度の高い算数・数学に興味のある算数・数学チャレンジクラブ員を中心に、学年別クラスを編成し、より高い算数・数学の能力育成を目指しています。具体的な目標として、算数オリンピックや広中杯などを掲げています。今年度は、4名が地方大会に合格し全国大会へ進むことができました。

【利用者の感想から】

- 図にしたら簡単になった。問題の図を考えるのも大切だと思った。(小5)
- 難しい問題ばかりで、このようなレベルの問題を解けるようになりたいと思った。(中1)



この財団だよりに掲載している事業への参加者数などの資料は財団ホームページにデータ編として掲載しております。併せてご覧ください。

財団では寄附を募集しております

当財団は、主に金沢市に在住する児童生徒等の課外における科学的な活動などを支援するとともに、その普及・発展に努め、科学の心を育むことを目的に、「児童生徒等を対象とした課外での科学に関する活動」、「児童生徒等の科学の心を育てるための普及啓発活動」、「科学に関する諸団体や国内外の児童生徒等との交流活動」を柱とした事業を実施しています。また、これら事業の高い公益性が認められ、「公益財団法人」として、平成23年4月より運営を行っております。

これらの事業に必要な資金は様々な団体からの助成金や事業参加者からいただく参加費、そして財団が所有する限りある資金を取り崩して行っております。こうした“教育普及活動”は一朝一夕で成果のあがるもので

はなく、長期にわたり継続していくことでその効果が発揮できるものと認識しております。こうした意義ある事業を今後とも継続発展させ、一人でも多くの子どもたちの科学の芽を育てていくためには、多くの皆様方からの温かいご支援が不可欠と考えております。

また、こうした公益性の高い団体へ行われる“寄附”はその寄附者に対し、税額の控除等が認められています。財団では、こうしたことも踏まえ、多くの方々からのご支持、ご寄附をいただき、もっと多くの子どもたちに事業へ参加いただける環境づくりを行いたいと考えております。

以上、当財団の事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄附をお寄せいただくようお願い申し上げます。

公益財団法人 金沢子ども科学財団だより

第9号

平成24(2012)年 3月発行

公益財団法人 金沢子ども科学財団

〒920-0913 石川県金沢市西町三番丁16番地

Tel: (076)221-2061 Fax: (076)221-2062

メールアドレス kodomokagaku-z@kanazawa-city.ed.jp

ホームページ <http://www.kanazawa-city.ed.jp/kodomokagaku/>

▶ その他詳しくは、お電話でお問い合わせもしくは、財団ホームページをご覧ください。

金沢子ども科学財団

検索



西町三番丁16番地



柿木島1番1号